

* 三愛賞受賞によせて

この度、思いもかけない三愛賞受賞という栄誉を賜りました。酪農学園大学（獣医学群）と関係各位に心から謝意を表します。

およそ30年前、臨床獣医師として一定の経験を積んだころ、生産獣医療（プロダクションメディシン：以下PM）という新しい獣医療の重要性を知ることになりました。おりしも日本の酪農業界は、急速な乳質規制と規模拡大（フリーストール牛舎の増加）さらには高エネルギー戦略の中であって、規模と乳量を増加させながらも様々な領域から問題が噴出し、酪農現場と獣医療が混とんとした時代に突入していました。酪農家はそれまでの細菌数400万/mlをわずかの間に生菌数3万/ml以下まで（現在は1万/ml以下）低下させることを要求され、体細胞数においても30万/ml規制がほぼ同時期に突き付けられていました。

大型化する農場では、それまでの繋留式からフリーストール牛舎へと飼養形態の転換が急速に進みましたが、このフリーストールでは、蹄肢病：周産期病：突発的事故死が多発し、フリーストール牛舎への不信感が蔓延していました。一方で軌を一にして、高エネルギー戦略による乳量の増加が推奨されましたが、これらもその未熟と無知によって、いわゆる2型のケトosis、脂肪肝、第4胃変位など多くの周産期疾病が多発することとなったのです。すでに10年近い臨床経験から乳房炎や脂肪肝、第4胃変位の治療や手術はできても、その原因がわからない、原因を探るすべを知らない自分の未熟を思い知らされました。毎日点滴をしながら酪農家の前で言葉を失っていたことをいまでも鮮明に覚えています。

こうした状況で、搾乳技術やミルクングシステム、そしてフリーストール牛舎の勉強を酪農家仲間と一緒に始めたのが、私をこのPMに踏み込ませることになりました。その後、37歳で米国に渡り、約2年間、すべてのものを日産サニー（アメリカ名：セントラ）に詰め込んで、アメリカ中のPM獣医師や一般のコンサルタント、大学や研究所をめぐる旅をしました。この旅のなかで、米国獣医師や大学・研究機関のほとんどが私を温かく向かい入れてくれたことに今でも驚きと感謝を忘れることはできません。Knock and the door will be opened for you.（マタイ伝）

その後、日本に帰ってきて一人で始めた会社名をTotal Herd Management Serviceと名付けました。アメリカで一番お世話になった先生からいただいた会社名です。総合的（Total）に牛群（Herd）を管理する（Management）ためのサービス（Service）を提供できるように会社になりたいという思いを込めています。いまだその道は遠いものですが、その精神は会社の若い獣医師や授精師らにしっかり引き継がれています。

黒崎